

No.	感染症(PT)	出典	概要
76	トリパノソーマ症	AABB Weekly Report 2006; 12(43): 1-2	FDAがシャーガス病の供血者スクリーニング検査試薬を初めて認可したのを受け、米国血液銀行協会(AABB)は、採血施設が検査導入とその期間を決定し、供血者と受血者のフォローアップのためのガイダンスを提供するのに役立つよう、協会公報#06-08を12月14日に発表した。具体的な勧告内容は、出荷停止、遡及調査、自己血輸血で繰り返し検査陽性となった場合の成分製剤出荷の認可、供血延期措置、通知、確認試験、供血者の医学的評価のための供血延期などの事項が盛り込まれている。
77	トリパノソーマ症	CDC/MMWR 2006; 55(29); 798-800	ロサンジェルスでの心臓移植患者2名で、臓器移植によるシャーガス病伝播が見られた。1例は拒絶反応による合併症で死亡し、もう1例は心不全で死亡した。両例ともドナーがTrypanosoma cruzi感染者であったことが明らかとなった。米国における固形臓器移植によるT. cruzi伝播としては4例目と5例目になる。
78	トリパノソーマ症	FDA News P06-198 2006年12月13日	米国FDAは2006年12月13日、重篤且つ致死性の寄生虫感染症のシャガス病を引き起こす血液寄生虫について血液ドナーをスクリーニングする新しい検査を承認した。この試験はORTHO T. cruzi ELISA Test Systemと呼ばれ、trypanosoma cruzi抗体を検出するもので、このような検査では初めてFDAに承認されたものである。この検査は、全血の供血者のスクリーニングに加えて、臓器、細胞及び組織ドナーからの血漿及び血清をスクリーニングするのに用いられる。
79	トリパノソーマ症	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 98	フランスでリスクのある供血者に対し、シャーガス病スクリーニング検査を行うこととなり、Bioelisa Chagas, Chagatek, Ortho T.cruzi ELISA Test System <sup>1</sup> , ELISA Cruzi の4種類のTrypanosoma cruzi ELISAキットの感受性、再現性、特異性を評価した。感受性に関しては4種類の検査法で正確に検出された。再現性は24コピーのS/CO値の平均の変動係数によって示され、各々、6.30%、9.30%、15.7%、22.40%だった。
80	梅毒	Public Health Agency of Canada 2006年9月29日	オクラホマ州保健局は、2006年5月最終週から9月13日の間の定期的疾患サーベイランス中に、Washington郡Bartlesvilleにおいて早期梅毒症例13例が確認されたと発表した。これらの症例は、全て異性との接触を介して感染し、大半の症例は、クラック(高純度コカイン)およびmethamphetamine使用、またはドラッグおよび金銭を目的とした性交と関連があった。最近5年間にWashington郡において確認された早期梅毒症例は、1例のみであった。
81	パルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 608-611	ガーナ妊婦885名の分娩時の血漿検体についてヒトパルボウイルス(HPV) B19 DNAとB19特異抗体を検査した。母親血漿と臍帯血のペア検体、また新生児の全血も検査した。母親のHPV B19 DNA陽性率は、1.8%(そのうち94%は遺伝子型3型株)であり、IgG陽性率は、81%であった。HPV B19初感染の母親3症例中2例は胎児への感染を起こした。HPV B19 DNAとHPV B19特異IgGの共存は、13名(1.5%)の女性で見られたが、胎児へのウイルスの伝播は認められなかった。
82	パルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のパルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、パルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
83	パルボウイルス	Transfusion 2006; 46:1593-1600	パルボウイルスB19ジェノタイプ3流行地域であるガーナで、114組の成人供血者-小児受血者ペアにおける輸血によるB19の伝播および免疫学的特性について調べた。2例の供血者がパルボウイルスB19DNAと特異的抗体を含有していたが、伝播は見られなかった。B19 IgG含有の全血がB19DNA陽性受血者14例に輸血されていたが、その内、輸血前にVP2に対する抗体が認められなかった10例ではウイルスが除去された。
84	ブドウ球菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 1710-1712	最近、オランダで養豚業者がしばしばMRSAを保有することが報告されている。これらのMRSA株はブタでみられるMRSA株と関係がある。ケースコントロール試験の結果、ウシ飼育業者もMRSAキャリアである危険性が明らかとなった。養豚業者が入院する場合は、MRSA陰性と分かるまで、隔離するように勧告する。

No.	感染症(PT)	出典	概要
85	マラリア	Eurosurveillance 2006年11月16日	2006年8月にコルシカ島で三日熱マラリア1症例が診断された。フランス南東部出身の59歳男性で、2006年夏に南コルシカのポルトに滞在していた。患者はマラリア流行地域への渡航歴はなかった。マダガスカルに渡航歴のある三日熱マラリア患者が7月初めに同地区に滞在しており、コルシカのハマダラカによってP. vivaxの国内伝播が起こったことを示唆している。本症例は、この地域で報告されたマラリアの地域内伝播の1972年以来初の症例である。
86	マラリア	Eurosurveillance weekly release 2007; 12(1): 070111	輸入感染症サーベイランスに関するヨーロッパネットワークへの報告数によると、2006年11月下旬以降、インド、ゴア州への渡航者において、熱帯熱マラリア患者が増加している。1月10日までに、ドイツで2例、デンマークで4例、スウェーデンで2例、計8例の患者が報告された。
87	マラリア	ProMED- mail20060627.1783	2006年1月以降、インドWest Bengal州においてマラリアの新規株によりヒト55例が死亡し、18000例以上が感染した。Darjeelingでは2006年1月以降、約2400例がマラリアに感染し、Plasmodium falciparumの新規株が感染の原因であると思われる。この新規株は、ミャンマーまで追跡され、突然変異を起こし、薬物抵抗型になった。従来の薬物はほとんど効果がなく、混合した物を試している。
88	マラリア	第66回日本寄生虫学会 東日本支部大会 2006年10月21日	Plasmodium gallinaceumによる鶏マラリア侵入時の国内伝播の可能性を調べるため、日本産蚊のP. gallinaceum媒介性について検討した。蚊に感染血液を吸血させ、経時的にスポロゾイト(sp)形成を観察し、鶏ヒナへの伝播試験を行った。アカイエカではsp形成は見られなかったが、ヒトスジシマカとオオクロヤブカではspが形成され、これらのsp接種および感染ヒトスジシマカの吸血による鶏ヒナへの感染が確認された。鶏マラリアの検疫強化、発生時対応策の構築が必要である。
89	リケッチア症	ProMED- mail20061130.3391	アイオワ大学感染症科は最近6ヶ月で8例のQ熱患者を診察した。州保健局は2006年だけで他に11例を報告している。過去3年間で4例であったことに比べると、発生率もしくは報告数が有意に増加している。アイオワ南東部またはイリノイ北西部に住んでいる8例の内2例はウシ、ヤギまたはウマとの明らかな接触歴があり、4例は動物との希薄な接触歴があった。
90	ロタウイルス 胃腸炎	J Clin Microbiol 2006; 44: 4101-4112	臨牀的に感染した子牛から単離したウシA群ロタウイルス株KJ44とKJ75の11の遺伝子の配列をシーケンスし、解析した。うち2つはウシ関連株との関連を示したが、残り9遺伝子はブタA群ロタウイルスと密接な関連を示した。KJ44とKJ75はG5ロタウイルスと高いアミノ酸相同性を示し、典型的なブタロタウイルスであるNSP4 genotype Bに属した。G5遺伝子型ウシロタウイルス株はウシ株とブタ株間の自然再構築の結果発生した、新規のウシにおけるG遺伝子型であることが示唆された。
91	感染	ProMED- mail20060903.2508 ProMED- mail20060908.2549 OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日 ProMED- mail20061129.3387 ProMED- mail20070114.0185	2006年6月末以降、中国の6つの省で、高熱、皮膚の発赤、呼吸促進を特徴とする疾患で死亡した。調査の結果、古典的ブタ熱、ブタ生殖器および呼吸器症候群、ならびにブタサーコウイルスの混合感染に関連する事が明らかとなった。
92	感染	Blood 2006; 108: Abstract #4144	0.2mM S-303 (アクリジン化合物) および20mM グルタチオン(GSH) を用いた改良S-303処理法を用い、RBC中の細菌およびウイルス不活化の有効性を評価した。輸血に関連するグラム陽性菌およびグラム陰性菌、Vesicular stomatitisウイルス、Adenovirus 5、HIVおよびウシウイルス性下痢ウイルス(HCVのモデル)のいずれも改良S-303処理により効果的に不活化された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
93	感染	CDR Weekly 2006; 16(43)	2005年1月1日から12月31日までに英国の血液センターから輸血伝播感染症(TTIs)疑い症例46例が報告された。調査の完了後、3例(B型肝炎1例、細菌血症2例)がTTIsと確定された。供血者でA型肝炎感染の2例についても調査が行われた。残り41例中40例は感染源として輸血に関連していなかった。1例(C型肝炎)は調査が未完了である。2006年初頭に受血者において、臨床的に診断されたvCJD症例が追加報告された。同症例は英国で3症例目となる輸血に関連したvCJDの症例である。
94	感染	FDA News; P06-116, 2006年8月18日	米FDAは、ドナースクリーニングおよび記録保持の管理を含めた製造業務における重大な欠陥を査察により確認し、ヒト組織再生会社Donor Referral ServicesおよびオーナーのP. Guyettに対して、ヒト細胞、組織、細胞および組織由来製品のすべての製造業務の即時停止およびこれらの留保を命令した。現時点でFDAは問題の組織による治療を受けた患者における有害反応発生の報告を受けていない。Donor Referral Servicesによりヒトドナーから再生された組織製品は全て回収された。
95	感染	FDA News; P06-122, 2006年8月30日	米FDAは、ヒト細胞および組織の安全性に関する総合的専門調査会の設立を発表した。ヒト細胞および組織を規制するために、リスクに基づいた包括的システムを強化するための一環として、FDA Human Tissue Task Force(HTTF)が設立され、主な優先事項として、2005年に発効した組織に関する新たな規制の実施効果の評価が予定されている。一部の組織回収施設が、組織回収について連邦要件を満たしていないとの最近の報告について調査される予定である。
96	感染	FDA News; P06-129, 2006年9月13日	米FDAは、組織の回収に関する安全性要件の重大な違反が最近2件確認され、業務を停止させたことに続き、製造業者に対するガイダンスを発行する。このガイダンスはヒト細胞または組織の回収・加工・保管・表示・包装・流通、ドナーのスクリーニングまたは検査のいずれかまたは全てに関する企業が法的責務を認識することを目的としている。CGTP(Current good tissue practices)は伝染病の導入、伝播、拡散を防ぐこと、製造中の汚染を防ぐことを製造業者に要求している。
97	感染	HPS Weekly Report 2006; 40(27): 144	スコットランドのGenitourinary Medicine(GUM)クリニックの活動に基づく2005年の性感染症更新データ等を含む集計表が発表された。2004年と比べて、性器クラミジアは8%、淋病は7%、性器ヘルペスは4%、HIVは11%増加した。
98	寄生虫感染	ProMED-mail20060721.2007	ケニア保健省は、Eastern地方においてカラアザール(内臓リーシュマニア症)のアウトブレイクを確認した。脾臓吸引により少なくとも10例が陽性と確定された。30人以上の小児がカラアザールの症状で入院中である。
99	口蹄疫	OIE Disease Information 20(5) 2007年2月1日	中国における口蹄疫-Follow-up report No.1:開始日-2007年1月15日、アウトブレイクの確定日-2007年1月17日、報告日-2007年1月30日、前回の発生日-2006年11月、病因-口蹄疫ウイルス(血清型Asia1)、新たなアウトブレイク-Xinjiang, Xinheの村(アウトブレイクの開始日2007年1月23日):ウシにおいて疑い例25例、処分25例、ブタにおいて疑い例48例、処分48例、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
100	口蹄疫	ProMED-mail20070117.0224	中国(香港)Yueng Longの養豚場における口蹄疫のアウトブレイク後に、Agriculture, Fisheries & Conservation Departmentは養豚業者に対して良好な衛生を保つよう要請した。現在のところ地域のブタにおいて異常な死亡は観察されていない。
101	細菌感染	AABB Weekly Report 2006; 12(27): 2-3	米国、カンザスシティのCommunity Blood Center(CBC)は、大腸菌を含む血小板1ユニットを投与された入院患者が死亡して以降、ドナーに対し文書を発行し、複数の内部変革を実施した。FDAは、この輸血が患者の死亡に“貢献した因子”であると断定している。ドナーが2005年12月にCBCに来院した時点では健康であった。しかしながら多重システムの障害により、細菌学的に陽性の血液ユニットが地域の病院へ提供された。
102	細菌感染	Epidemiol Infect 2006; 134: 1068-1073	Mycobacterium bovisはニュージーランドの野生動物や家畜を宿主とする。1995-2002年のヒト結核症例を疫学的、臨床検査学的に調べた結果、確定症例1997例中54例(2.7%)がM.bovisで、10万人当たり0.2人の割合であった。ヒトからの単離体23例中14例がウシ、シカ、オポッサム、フェレット、ブタ、ネコからの単離体と同一の制限酵素分析パターンを示した。ニュージーランドでは動物宿主からヒトへの伝播が低レベルで続いていることが示唆された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
103	炭疽	ProMED-mail20060720.1993	カナダSaskatchewan州では家畜で炭疽が大流行しており、47カ所の施設が隔離された。42カ所の確認された施設は、ウシの牧場 35カ所、ウマ 1カ所、ブタ 1カ所、バイソン 5カ所、オジロジカ 1カ所、ウシとウマ 1カ所、ウシとヒツジ 1カ所、ヒツジ 1カ所であった。10カ所の施設では、死体からのサンプリングが行なわれ、結果を待っている。死亡した動物は、ウシ148頭、ウマ6頭、ブタ1頭、ヒツジ3頭、バイソン34頭、オジロジカ8頭である。死体の処理方法は、焼却50%、埋葬24%、未定あるいは不明26%である。
104	炭疽	ProMED-mail20060924.2728	カナダ食品検査庁(CFIA)によると過去2週間に炭疽の新たな症例は確認されていない。たとえ新たな症例が発生しようとしても、その可能性は9月後半および10月に入るにつれて減少する。サスカチワン州で記録されている最悪の炭疽大流行では、ウシ493頭、バイソン254頭、ヒツジ29頭、オジロジカ13頭、ウマ6頭、ブタ3頭、ヤギ2頭など800頭の動物が死亡した。来年(2007年)も再び炭疽が発生する可能性があり、発生の多くは春の気候条件に左右される。
105	炭疽	ProMED-mail20061106.3187	オーストラリアのニューサウスウェールズ州では最近、2件の炭疽発生が認められたが、これらによる家畜の死亡はほとんどなかった。1件目で死亡したのは牛1頭のみで、2件目では子羊2頭が死亡した。両例とも既知の炭疽ベルト地帯で発生したが、この地帯では日常的に1年あたり約4件の発生がある。両例は政策に従って取り扱われた。すなわち、死亡した家畜は焼却され、接触のあった家畜全頭にワクチン接種が行われた。その後、これらの家畜場で死亡例は発生していない。
106	炭疽	ProMED-mail20061109.3216	ロシアのNorth Ossetia-Alaniaで炭疽により、ヒト2名が死亡した。感染源を調査中である。1名は肉の販売に従事していた。
107	梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	中国の性感染症サーベイランスシステム及び監視サイトネットワークからの症例報告データを収集し評価した。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天的な梅毒の発生率は、1991年は100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。
108	野兔病	Jpn J Infect Dis 2006; 59: 391-393	トルコのトラキア地域における野兔病流行について調べた。Demirkoy村では2005年に流行したが、村民400人中266人が採血され、患者、家畜および水源の検査が行われた。患者10例中7例が口腔咽頭型で、3例が無症候性であった。培養では野兔病に陰性であったが、PCR検査ではリンパ節吸引物1例と井戸水1例で陽性であった。数例の家畜は低レベルの特異抗体を有した。付近のげっ歯類の増加、野兔への暴露、感染した井戸水の飲用は危険因子として同定され、治療および予防措置がとられた。